

決算の状況（令和 6 年度）

鹿 嶋 市

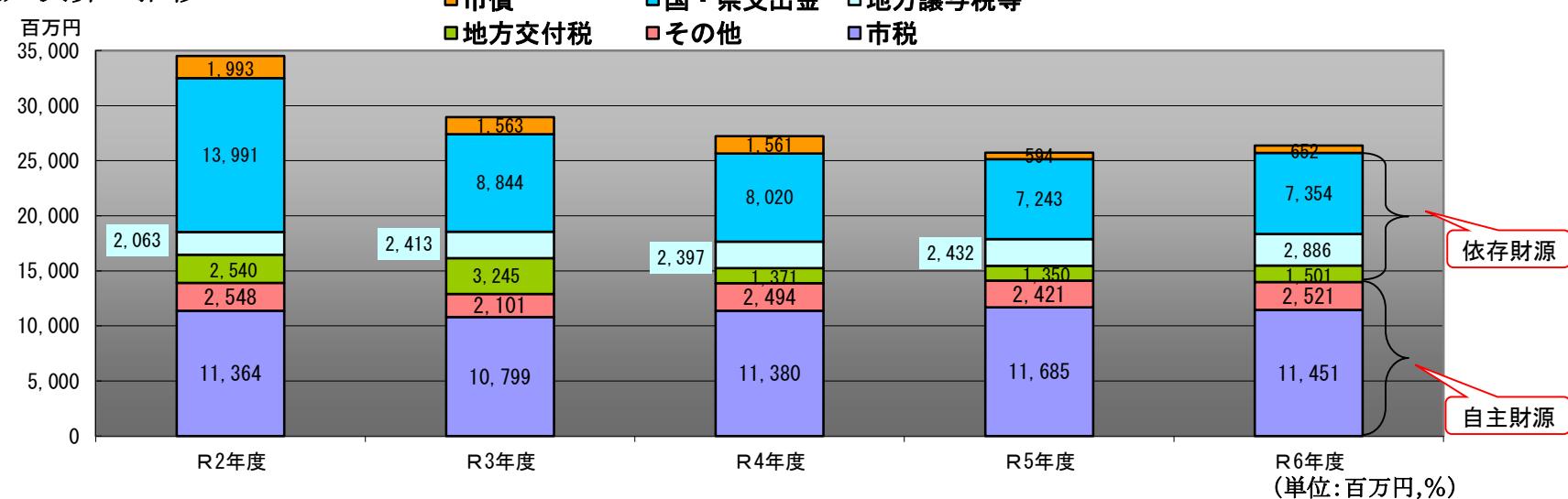
《 目 次 》

普通会計・歳入決算の状況	2
普通会計・歳出決算の状況	3
普通会計・決算収支の推移	4
令和6年度特別会計・企業会計決算の状況	5
財政指標の推移	6
基金残高の推移	8
市債の推移	9
引上げ分に係る地方消費税収の使途	10

◆ 普通会計・歳入決算の状況 ◆

※普通会計=一般会計・墓地会計

◆歳入決算の推移

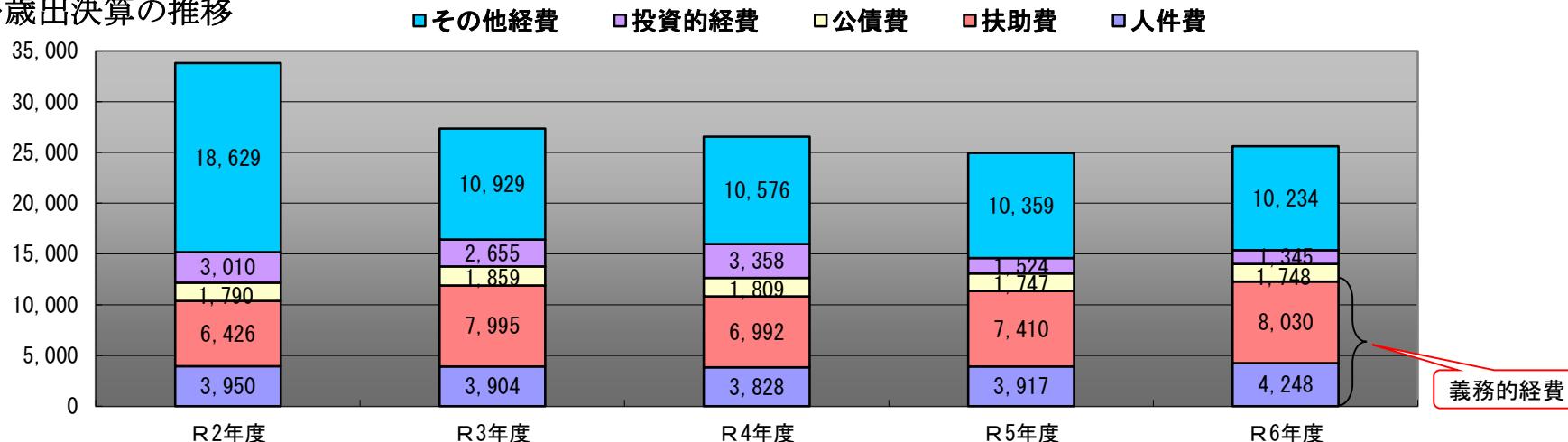


区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
自主財源	13,912	40.3%	12,900	44.5%	13,874	51.0%
市税	11,364	46.5%	10,799	32.9%	11,380	41.8%
その他	2,548	14.1%	2,101	7.4%	2,494	9.2%
依存財源	20,587	59.7%	16,065	55.5%	13,349	49.0%
地方交付税	2,540	4.7%	3,245	7.4%	1,371	5.0%
地方譲与税等	2,063	7.3%	2,413	6.0%	2,397	8.8%
国・県支出金	13,991	21.8%	8,844	40.6%	8,020	29.5%
市債	1,993	5.6%	1,563	5.8%	1,561	5.7%
歳入総計	34,499	100.0%	28,965	100.0%	27,223	100.0%

- 市税は、定額減税等による個人市民税の減等により減少しました。
- 地方譲与税等は、地方特例交付金の増等により増加しました。
- 国・県支出金は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増等により増加しました。

◆ 普通会計・歳出決算の状況 ◆

◆歳出決算の推移

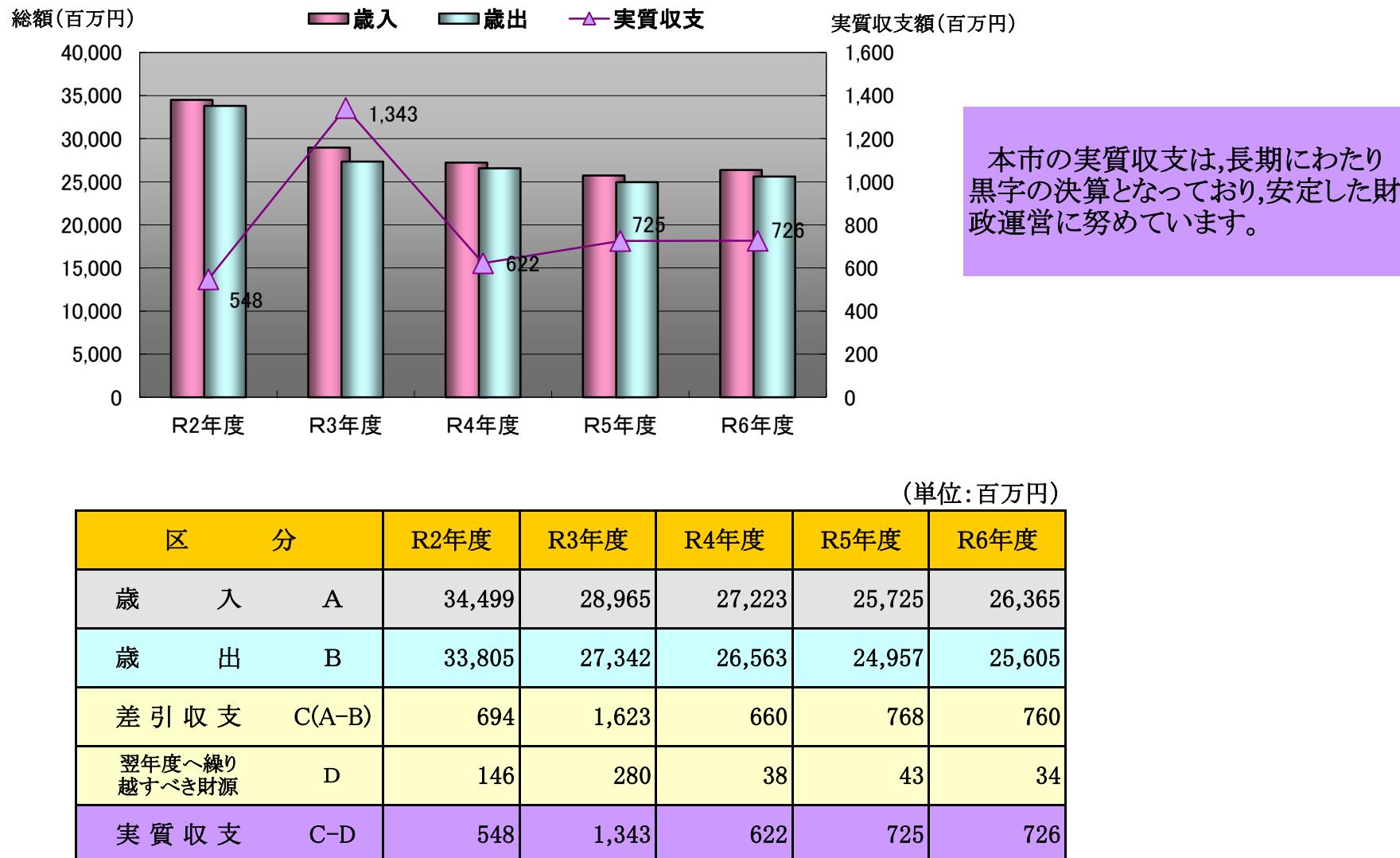


(単位:百万円, %)

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
義務的経費	12,166	36.0%	13,758	50.3%	12,629	47.5%
人件費	3,950	11.7%	3,904	14.3%	3,828	14.4%
扶助費	6,426	19.0%	7,995	29.2%	6,992	26.3%
公債費	1,790	5.3%	1,859	6.8%	1,809	6.8%
投資的経費	3,010	8.9%	2,655	9.7%	3,358	12.6%
その他経費	18,629	55.1%	10,929	40.0%	10,576	39.8%
歳出総計	33,805	100.0%	27,342	100.0%	26,563	100.0%

- 扶助費については、住民税均等割のみ課税世帯等支援給付金事業の皆増等により増加しました。
- 投資的経費については、都市再生整備事業(鹿島神宮周辺地区)の皆減等により減少しました。
- その他経費については、補助費等において、一般廃棄物広域処理事業の減等により減少しました。

◆ 普通会計・決算収支の推移 ◆



◆ 令和6年度特別会計・企業会計決算の状況 ◆

◆本市では、特定の事業を行うため普通会計と区分し、次の特別会計を設置しています。

◆特別会計

(単位:百万円)

特別会計名	歳入	歳出	差引	事業内容
国民健康保険	6,515	6,406	109	国民健康保険事業の運営
後期高齢者医療	1,064	1,061	3	後期高齢者医療事業の運営
介護保険	5,223	5,065	158	介護保険事業の運営
平井東部土地区画整理事業	51	18	33	平井東部の宅地造成
公共料金集合支払	309	309	0	公共料金等の支払
特別会計総計	13,162	12,859	303	

◆市町村が、住民の福祉の向上を目的として経営している企業を公営企業といい、本市では上水道事業や公共下水道事業について、企業会計方式により管理しています。

◆企業会計

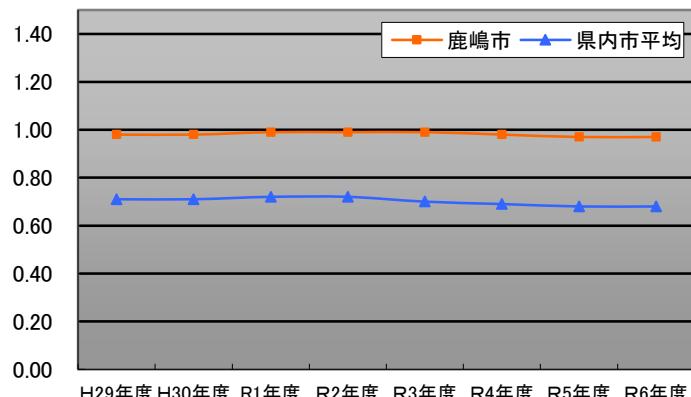
(単位:百万円)

事業区分	収益的収入	収益的支出	収支差引	資本的収入	資本的支出	収支差引	事業内容
水道事業	2,008	1,752	256	1,040	1,684	△644	水道事業の経営と施設整備
公共下水道事業	1,543	1,394	149	639	1,097	△458	下水道事業の経営と下水道整備
農業集落排水事業	130	120	10	17	31	△14	農業集落排水事業の経営
企業会計総計	3,681	3,266	415	1,696	2,812	△1,116	

◆ 財政指標の推移(R6年度まで) ◆

(単位:%)

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
財政力指数 (3ヵ年平均)	鹿嶋市	0.98	0.98	0.99	0.99	0.99	0.98	0.97
	県内市平均	0.71	0.71	0.72	0.72	0.70	0.69	0.68
	順位	4位/32市	4位/32市	4位/32市	4位/32市	3位/32市	3位/32市	3位/32市



本市の財政力指数は、県内市平均よりも高い水準で常に上位を維持しています。

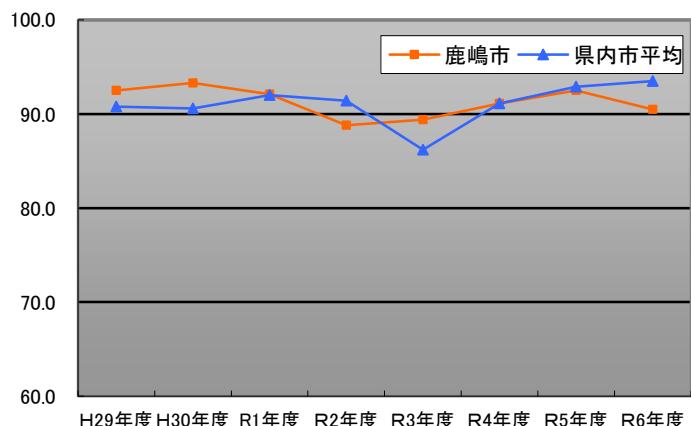
財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指標で、標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自前で調達できるかを表しており、指数が高いほど財政力が強いと言えます。

基準財政収入額(市税など自前で調達できる収入)を基準財政需要額(標準的な行政活動に必要な経費)で除して得た数値の過去3年間の平均値です。

単年度の財政力指数を「単年度財政力指数」と呼び、1.0を超えた場合は、当該年度の普通交付税は交付されない、いわゆる不交付団体となります。

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
経常収支比率 ※収入に臨時財政対策 債等含む	鹿嶋市	92.5	93.3	92.1	88.8	89.4	91.1	92.5
	県内市平均	90.8	90.6	92.0	91.4	86.2	91.1	92.9
	順位	22位/32市	28位/32市	15位/32市	5位/32市	26位/32市	17位/32市	11位/32市



本市の経常収支比率は、事業の見直しとともに、経常経費の抑制に努めております。令和6年度は、歳出においては人件費や物件費等の経常経費が増加したものの、歳入において地方消費税交付金や普通交付税等が増加したため、令和5年度に比べ2.0ポイント減少しました。

今後も行財政改革を推進し、財政の健全化に努めていきます。

経常収支比率

市税など使途が特定されておらず経常的に収入される財源のうち、人件費、扶助費、公債費など経常的に支出される経費に充当されたものが占める比率です。

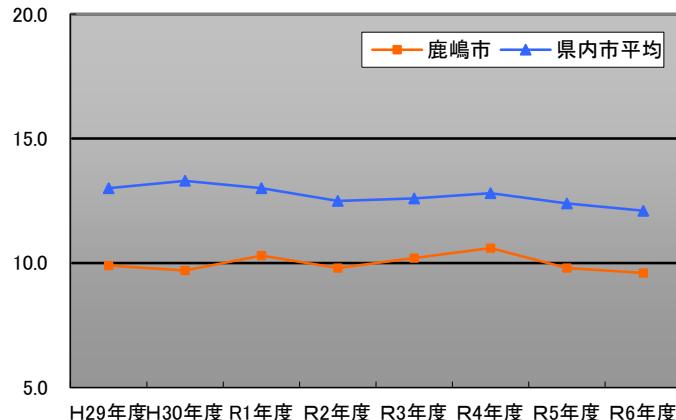
都市にあっては、70~80%にあるのが望ましく、80%を超えると財政構造の弾力性が失われつつあると言われています。

※表内の順位は、財政の健全性が高いものを上位としています。

◆ 財政指標の推移(R6年度まで) ◆

(単位:%)

区分		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
公債費負担比率	鹿嶋市	9.9	9.7	10.3	9.8	10.2	10.6	9.8	9.6
	県内市平均	13.0	13.3	13.0	12.5	12.6	12.8	12.4	12.1
	順位	3位/32市	3位/32市	4位/32市	5位/32市	6位/32市	5位/32市	5位/32市	4位/32市

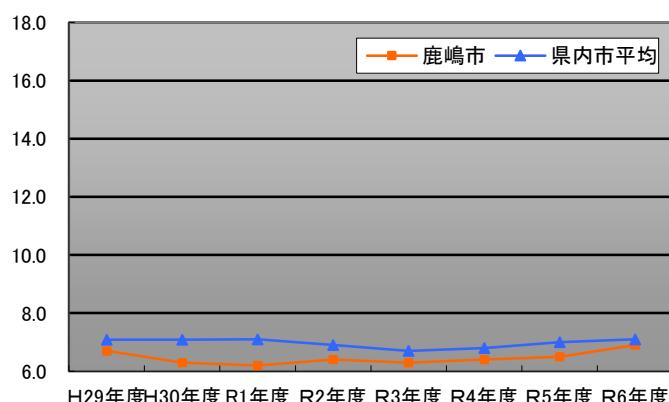


本市の公債費負担比率は、市債発行を抑制するなど健全化に努めた結果、県内市平均を大幅に下回っています。

公債費負担比率

一般財源(市税などの使い道が特定されない財源)総額のうち、どのくらい公債費(借入金の償還)に充当されたかを示すものです。一般的に、15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされています。

区分		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
実質公債費比率 (3ヵ年平均)	鹿嶋市	6.7	6.3	6.2	6.4	6.3	6.4	6.5	6.9
	県内市平均	7.1	7.1	7.1	6.9	6.7	6.8	7.0	7.1
	順位	9位/32市	9位/32市	9位/32市	10位/32市	10位/32市	13位/32市	21位/32市	20位/32市



本市の実質公債費比率は、主に下水道事業などの公営企業の地方債に充てたと認められる繰入金の増等により、令和5年度に比べ0.4ポイント増加しました。

引き続き、起債に大きく頼ることのない財政運営に努めます。

実質公債費比率

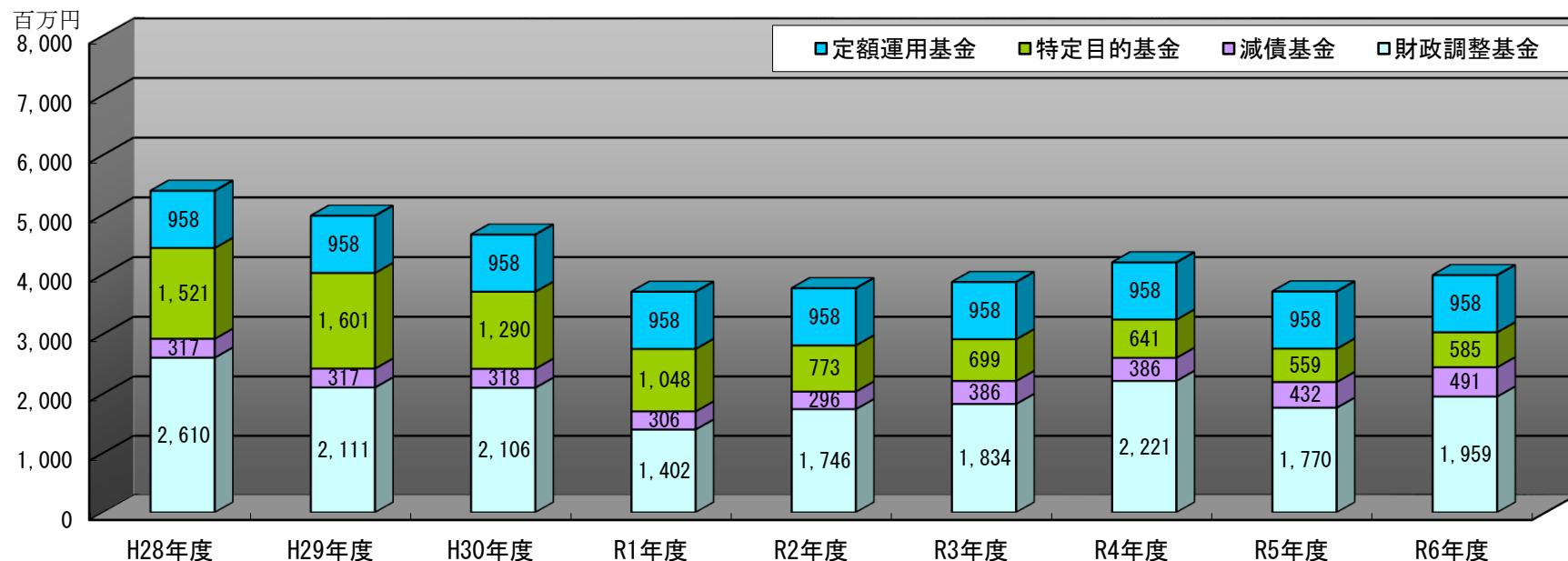
平成18年度から新設された指標です。これまでの起債制限比率は、市税などの経常的な収入に対する市の借入金の返済の割合を示すものでしたが、これに公営企業の市債返済に要する繰出金などを含めて算出したものが実質公債費比率になります。この比率が18%以上の団体は地方債の発行に際し許可が必要となり、さらに25%以上の団体は一部の単独事業に係る地方債が制限されます。

※表内の順位は、財政の健全性が高いものを上位としています。

◆ 基金残高の推移 ◆

本市の基金総額は、令和5年度に比べ約2億7千4百万円増の39億9千3百万円となりました。今後も引き続き長期的視野に立ち、安定した財政基盤の構築に努めます。

◆基金残高の推移

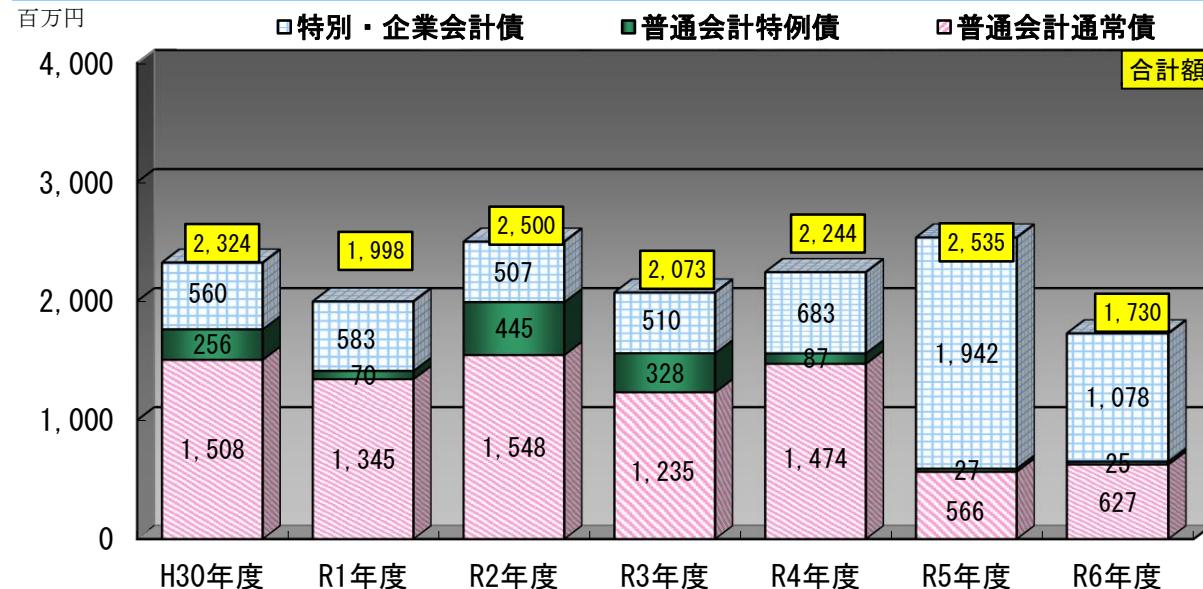


(単位:百万円)

基金区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
財政調整基金	2,610	2,111	2,106	1,402	1,746	1,834	2,221	1,770	1,959
減債基金	317	317	318	306	296	386	386	432	491
特定目的基金	1,521	1,601	1,290	1,048	773	699	641	559	585
定額運用基金	958	958	958	958	958	958	958	958	958
合計	5,406	4,987	4,672	3,714	3,773	3,877	4,206	3,719	3,993

◆ 市債の推移 ◆

◆ 市債発行額の推移



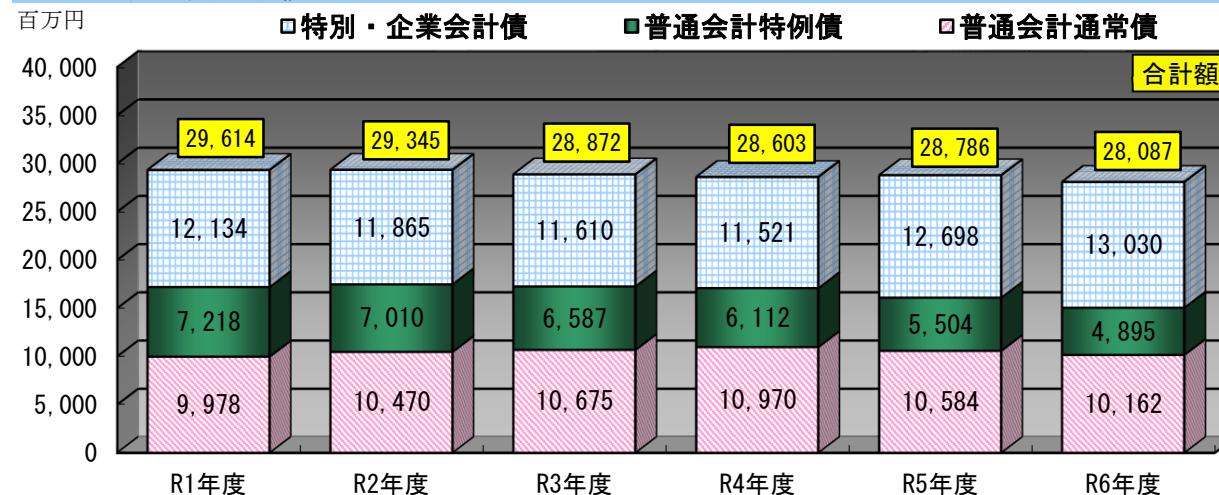
○市債発行額は、実施事業等により流動的ですが、令和6年度は上水道事業債の増等により、約17億円となりました。

○普通会計通常債は、排水路整備事業の増等により令和5年度に比べ6千1百万円増加しました。

○普通会計特例債は、臨時財政対策債の減により、令和5年度に比べ2百万円減少しました。

特例債は、臨時財政対策債、減税補てん債、減収補てん債を含んでいます。

◆ 市債残高の推移



○市債残高は、市全体では290億円程度を推移しています。令和6年度は、普通会計債において償還額が発行額を上回り、減少となりました。

○特別・企業会計債は平成25年度以降減少しておりましたが、令和5年度において増加に転じ、令和6年度は令和5年度に比べ、約3億3千2百万円の増となりました。

◆ 引上げ分に係る地方消費税収の使途 ◆

引上げ分の地方消費税収(社会保障財源化分の地方消費税交付金)が充てられる社会保障施策に要する経費

(歳入) 地方消費税交付金(社会保障財源化分)	952,675 千円
(歳出) 地方消費税交付金(社会保障財源化分)が充てられる社会保障施策に要する経費	9,420,675 千円

【地方消費税交付金(社会保障財源化分)が充てられる社会保障施策に要する経費】

(単位:千円)

款項	目	令和6年度 決算額	財源内訳							
			特定財源				一般財源			
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他	地方消費 税交付金 (社会保障 財源化分)	その他		
社会福祉	03	01	社会福祉総務費	15,267	6,182	225	0	463	2,098	6,299
		02	障害者福祉費	1,951,353	934,840	452,554	0	40,532	130,753	392,674
		03	老人福祉費	86,627	0	1,267	0	9,648	18,913	56,799
		06	医療福祉費	438,994	0	163,912	0	17,831	64,262	192,989
	02	01	児童福祉総務費	699,418	197,843	113,439	0	134,693	63,310	190,133
		02	児童支援費	3,026,975	1,739,196	570,004	0	96,878	155,101	465,796
		03	保育園費	514,554	449	381	0	32,522	120,205	360,997
	03	01	生活保護総務費	89,504	4,549	0	0	0	21,222	63,733
		02	扶助費	1,307,020	924,015	35,881	0	13,096	83,441	250,587
小計			8,129,712	3,807,074	1,337,663	0	345,663	659,304	1,980,008	
社会保険	03	01	後期高齢者給付費	788,032	0	0	0	0	196,851	591,181
		09	介護保険費	401	0	300	0	0	25	76
	小計		788,433	0	300	0	0	196,877	591,256	
保健衛生	04	01	保健衛生総務費	123,097	0	427	0	240	30,583	91,847
			予防費	219,234	1,854	17	0	41,199	44,006	132,158
		03	健康検診対策費	53,804	514	2,150	0	11,280	9,957	29,903
		04	母子保健対策費	56,862	10,198	2,590	0	832	10,802	32,440
		09	診療所費	49,533	0	0	0	44,944	1,146	3,443
	小計		502,530	12,566	5,184	0	98,495	96,495	289,790	
	合計		9,420,675	3,819,640	1,343,147	0	444,158	952,675	2,861,055	

※地方消費税交付金(社会保障財源化分)は、各費目に要する一般財源の比率に応じて按分して充當しています。